

私の心の風景



小樽市医師会
恵愛病院

よし だ よう 子
吉 田 容 子

私の好きなテレビ番組はNHKBSの「にっぽん縦断 ころろ旅」です。この番組は東日本大震災のあった2011年の4月から始まりました。楽しみにされている会員の方も多いと思いますが、火野正平さん率いる「チームころろ旅」が全国から寄せられたお手紙、「私の心の風景」を自転車で訪ね、その風景と共にお手紙を読む、朝版15分、夜版30分、週4日放送の番組です。正平さんの飾らない人柄と駄洒落、旅の途中の風景やさまざまな人との出会い（仕込んでいない）、お手紙に書かれている何気ない風景の道、橋、山、樹などが書いた方の文章とともに私たち視聴者にしみじみと伝わり、時に涙し感動と心の癒やしを与えてくれる、とても素敵な番組です。正平さんの最後のつぶやきも年齢を重ねるにつれて「ここに連れて来てくれてありがとう」などど温かくなり、ほっこりします。

さて表題の「私の心の風景」は今や跡形もなく、「私の心の中」にしかないのです。この番組に投稿はできません。今年女（豪の虎）でくじ引きに当たったので書いてくださいとの依頼があったのに便乗し、ここに書かせてもらうことにしました。テレビの映像も写真もありませんので私の拙文で想像していただくと幸いです。

「私の心の風景」—65年前の名寄農業高校の宿舎から名寄南・東小学校までの通学路にある小さな林と名寄公園

私の父は1956年の秋、名寄農業高校の生物の教師として教鞭を執ることになりました。私は当時就学前の6歳。家族4人で札幌から名寄まで約6時間汽車に乗り、駅からは荷物と一緒に馬車に揺られて農場の横にある職員住宅まで行きました。宿舎は平長屋で、トイレは共同のいわゆるポットン便所でした。当初はガス・水道もなく部屋には裸電球1つで、水は川の水や雨水などをためた共同の貯水槽から引いたものです。後に父が作ったお風呂を沸かすとたまにメダカが数匹浮いていました。一度、夏に水が枯れ、丘を越えて名寄川に洗濯に行ったこともあります。煮炊きは、七輪・薪ストーブでしていました。

私は翌年の4月1日、名寄南小学校に入学しました（小3の途中から新設された東小に小6の5月まで通学）。当日は季節外れの大雪の降る中、雪を漕ぎながら行ったのを鮮明に覚えています。名寄は盆地で冬は最低気温 -30°C 以下、夏は最高 $+30^{\circ}\text{C}$ になります。冬になると毎朝6時半にラジオから最低気

温の発表と同時に、 -25°C 以下の日は「今日は学校はお休みです」、 -20°C 以下の日は「今日は2時間遅れです」というアナウンスが流れます。当時は今のような防寒着などなく、宿舎より遠い農家の子供たちも多く、凍傷など命の危険があったためでした。私はゴム製の薄いジャンパーの下に分厚い手編みのセーターとウールのスカート、足はもも引きの上に手編みの今でいうスパッツと靴下3枚をはき、ゴム長靴の中に唐辛子1本、手袋は5本指のと「ぼっこ型」の2枚。1年生の頃はそれでも寒く、まつ毛は凍り付き、足指は冷たいのを乗り越して痛く、泣きながら通ったものでした。春には熊が出ると、猟銃を持ったおじさんと農家の子供たちと一緒に軽トラに乗って帰ったこともあります。

一人で歩いた通学路はまず宿舎を出て、職員の子供たち用のブランコのある公園の横道を通り、小さな林を抜けると名寄公園に出ます。公園の道の左側には池があり、その向こう側に小さな茶屋があってお猿さん1匹と店番のお婆さんがいました。子供にとっては結構なでこぼこ道を歩き、その先の急坂を降りると街となり、学校まで40分程歩きました。春は行き道の林にかかっていた朝露がぱっと晴れ、澄んだ空気の中を歩き、帰りは公園から学校の大きな雑木林に入り、笹やぶの中に生えている沢山のワラビを採って帰りました。夏は池に足をつけ、タニシを採ったり、秋はアカゲラが樹をつつく音の響く林の中を歩きました。冬の公園に積もった雪は雪の結晶が積み重なっており、太陽に当たるときらきら輝きそれはそれは美しいものでした。早春は雪解けが始まり、その中にそっと足を入れると澄み切ったブルーになり、馬そりが通った道の下には澄んだ雪解け水がちよろちよろ流れます。道にはゴミなど1つもなく、落ちてるのは馬ふんだけでした。

この公園から自宅までの往きと帰りの一人の時間は、私にとって至福の時でした。この汚れのない美しい自然は、病弱だった私の身体を鍛え、心を癒やし、まさに「私の心の原風景」となりました。社会人となり身も心もボロボロになった時、私に力をくれ、癒やしてくれたのはやはり山や林、畑、海、空、空に浮かぶ雲、空気、すべて自然です。

今や、開発による自然環境の破壊が進み、「心の風景」はどんどん無くなっています。また「奇跡の水の惑星」である地球の母なる海もプラスチックごみに汚染され、更に温暖化の加速により人類存続の危機が叫ばれています。ヒトは土から生まれ自然に生かされ、また土に還るという当たり前のことを忘れてしまったのでしょうか。私の孫6人を含めた次世代の未来のために今の自分の生活を見直し、できることをしたいと思っています。